



## 基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

交通事故の負傷者を人命救助し、石川警察署から感謝状をいただきました。



平成28年8月29日に、琉球病院東Ⅲ病棟所属の東太田雄作看護師が、恩納村で起こった交通事故で心肺停止となった子供さんの心肺蘇生を行うなどの人命救助により、石川警察署より感謝状をいただきました。

これを受けて後日、院内においても福治院長より感謝状が贈呈されました。

### 《東太田看護師の話》

夜20時過ぎ頃、恩納村のムーンビーチ前を夫婦でウォーキング中、「キャー！」と妻の叫ぶ声と同時に「ドン」と大きな音がして道路を見たら、車に跳ねられた大人の男性の足が上に向けて飛ばされ、その横に子供も飛ばされて地面に。男性は意識がある様子。妻に「119番、大人のレベル確認」（妻は沖繩病院に勤務する看護師）。僕は急いで子供へ。呼吸してない（焦る）脈触れない、俺が焦って間違っているのか？自分の判断に迷うが、再度確認！呼吸してない、脈触知できない、レベルJCS300、心臓マッサージ開始。10回程度で少し反応が、ゆっくり呼吸し始め反応した。脈も触知でき、徐々に意識も戻り泣き始めた。大人は、中国語を話して意味がわからない。ちょうど、日本語を話せる中国人が通訳してくれた。「何で、ここにいるの？」レベルJCS2。大人は妻に任せて、子供の安全を確保し、頸椎への損傷の可能性があるため、体動しないように付き添う。周りにいた人に、交通整理を依頼。救急車が到着後、救急隊員に状況説明し、ボード固定までサポートして引き渡す。その後、警察の事情聴取に協力し帰宅。濃厚なウォーキングでした。後日、職場に人命救助のお礼と、子供は症状が悪くなることなく経過していると、メールが届きました。感謝状をいただいた時に、大人と子供が無事退院し中国に帰ったと情報をいただきました。

当院就職前に、救急外来(ER)に5年以上勤務していましたが、救急隊のホットライン後に準備できた状態とは違い、その現場での対応とは勝手が違いますし、救急の現場を離れ何年も経っているので、焦った事は事実です。事故に遭遇する前に、夫婦で消防のAED講習、また、ICLSの講習を受けていた事が、今回の事に繋がったと思います。反復の演習、学習の大切さを感じる出来事でした。

## トピックス

### 行事・出来ごと

- 病棟等建替整備の動き  
進捗状況 本体工事：新病棟（第1期工事）完成・・・平成27年7月 新病棟（第2期工事） 雨水配水管盛替工事 完成予定・・・平成29年2月 重心病棟建替等工事 完成予定・・・平成30年10月

### 教育・研修

- 第48回琉球セミナー  
日時：平成28年11月7日（月）17:30～19:00 場所：琉球病院研修棟3階大会議室 テーマ「リカバリーとWRAPについて—当事者からのメッセージ」 講師：増川ねてる先生
- CVP院外トレーナー養成コース  
日時：平成28年11月28日（月）～12月1日（木） 場所：琉球病院研修棟3階大会議室・北棟1階ジム室

## ● 地域医療連携室だより

当院では一般精神科のほか、アルコール等の依存症治療全般、児童思春期、認知症などの専門治療を行っています。また、患者様やご家族の生活相談や悩みを聞き、一人ひとりのニーズに沿った支援を提供出来るよう日々業務に取り組んでおり、行政機関や他の医療機関との連携の窓口でもあり、医療と福祉との繋ぎ役も担っております。

なお、外来診療については予約制になっております。予約相談以外にも、お困りの事などございましたらお気軽に地域医療連携室へご相談ください。



10月27日現在

精神科病棟 3床	認知症 2床	アルコール 2床	児童思春期ユニット 1床
-------------	-----------	-------------	-----------------

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

## 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)  
1964年生まれ、那覇市出身、  
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、  
琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年  
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、  
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。

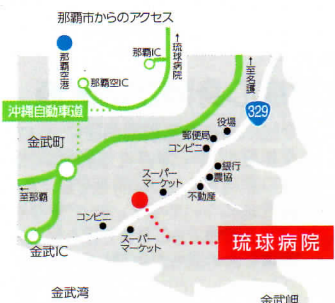


### 診療科

- ・ 一般精神科
- ・ こども心療科
- ・ 物忘れ外来
- ・ アルコール依存症等外来

### 病床数 406床

- ・ 精神科病棟 181床
- ・ 認知症 50床
- ・ アルコール 54床
- ・ 児童思春期
- ユニット 4床
- ・ 重症心身
- 障がい 80床
- ・ 医療観察法 37床



### ● アクセス

路線バス／那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖繩/バス  
「77番名護東線」浜田/バス下車徒歩3分  
自動車／那覇市から40分  
沖繩自動車道金武インターから名護向け5分

### お問い合わせ時間

8:30～17:15 (土・日・祝日以外)  
TEL：098-968-2133 (代)  
内線：231・234

地域医療連携室(直通)  
TEL：098-968-3550  
FAX：098-968-7370



## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年に1例目のクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は183例になりました。平成28年9月のCLZ導入は2例でした。うち1例は他の病院からのご紹介例で入院中(隔離中)の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT(修正型電気けいれん療法)の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成28年9月の治療実績はありませんでした。

## こども心療科

昨年こどもの心の診療ネットワーク事業の一環として実施した『みんなの学校』上映会及び木村泰子先生の講演会を今年度は宮古島にて開催することになりました。宮古島市教育委員会との共催で宮古島の教育・医療・福祉関係者向けの講演会と一般市民向けの上映会を行います。また、これに合わせて宮古島市役所自殺対策強化事業と共催し、思春期の子どもの理解や関わりについての講演及びグループワークを開催いたします。子どもたちに関わる大人ができることについて考えるきっかけになればと思います。

映画上映会・講演会：11月29日(火) 宮古島市中央公民館大ホール  
自殺対策講演会・グループワーク：11月28日(月) 平良保健センター

## 認知症医療

今回は認知症と車の運転についてご紹介します。ご家族に認知症の人がいて、「心配で夜も眠れない」と云われる事に交通事故があります。患者さん御自身が事故に巻き込まれる心配もありますが、患者さん自身が車を運転される場合、事故を起こして人を傷つけないかが心配だと云います。認知機能が落ちてくると、危険予知の判断力が落ちるだけでなく、車を運転することが上手く出来なくなります。また、いくつもの事に注意を向けることが出来なくなり、前を見ている時に後ろに注意が向かないだけでなく、道路標識や対向車、並走する車、横断歩道を渡っている人など周囲のものが目に入らなくなります。

私の友人話ですが、コンビニで買い物をして駐車場にもどると車をぶつけられていました。ぶつけた車の運転手のところへ行くと「お前、バックでぶつけやがって」と怒り狂っています。友人は「なに言ってるんですか。あなたがぶつけたのでしょうか。私は店に行っていて、車に乗っていません」と言い返したのですが、言い争いがつるばかり、警察を呼ぶことになりました。現場検証は相手の証言が一定しないため数回にわたって何日も行われました。しかし、事故から日数がたつと、相手は事故を起こしたことを否認するようになりました。「私は事故など起こしていない。あなたの車とぶつかったことなどない」と言い張ります。相手の車は任意保険に入っていたので、「修理費など被害者請求したら」と提案したのですが、事故を起こした本人が「事故を起こした」と認めない限り、保険会社は対応できない規則になっているそうです。友人も警察も困り果てていましたが、ご家族が「申し訳ありません」と示談を申し出たことで解決しました。

認知症の人が運転する車による交通違反や事故は増加しています。この状況に対応するため、今年7月12日に改正道路交通法施行令が閣議決定されました。実施は来年3月12日からです。対象となる75歳以上の高齢者は、運転免許の更新時に認知機能検査を行うだけでなく、逆走や信号無視など18項目の交通違反を犯した場合も認知症の検査を受ける事になります。そして、医師による診察の結果、認知症と診断されたら運転免許は停止または取り消しとなります。

来年3月からの施行ですが、今すぐどうにかして欲しい、3月までに事故を起こさないか心配という方もいらっしゃると思います。当院でも検査・診断はできませんが、ご本人をご家族だけで病院へ受診させることはなかなか難しいことです。このような問題はご家族だけで抱え込まないで、お近くの地域包括センターや役場の福祉課とご相談ください。地域の方々を通して琉球病院と繋がることで、受診の事だけでなく免許を返納した後の生活をどうするか、地域で暮らしていくための良い解決策が出てくると思います。

## 重症心身障がい医療

今回は障害者差別解消法について紹介させていただきます。

今年度4月から障害者差別解消法が施行されました。その中で障害者の方へのあらゆる差別的扱いの禁止、合理的配慮がとりあげられています。合理的配慮の意味するものは障害をもつ方への生活しやすい環境づくりです。スロープの設置やバリアフリー化等の環境的な事もそうですが、もう一つ大切な事は支援方法についてです。カードや写真を用いて視覚的に伝える意思疎通の方法、緊張が強い方へ個別的に休憩ができる時間や場所の設定等が含まれます。西I.II病棟でもこれまで様々な工夫を行ってききましたが、今後もより充実させていく事が求められています。

地域を含め誰もが生活しやすい社会づくりへと歩んでいきたいものです。

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では9月現在、外来通院の患者様69名、入院中の患者様29名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

去った9月30日、当院主催で「第3回児童思春期のアルコール関連問題研修会」を行いました。県内の児童・思春期に関わる立場の方にご参加頂きました。講義に加え、参加者の関わっている飲酒問題のある高校生の事例を検討し、医療だけでなく、教育や警察との連携の必要性を参加者皆で共有できました。

## 包括的地域精神医療 (ACT)

R-ACT(ラクト)チームの動きです。チームで支援をしていた、対象者の方が支援期間3年目でR-ACTチームでの関わりを卒業しました。当初、定期薬を自己管理ができず、ご家族や訪問で見守りをしてきました。日中活動はデイケアで過ごすことが多かったのですが、これまでの夢であるコンビニでのバイトを自分で応募して、2年間継続して働いています。訪問看護の関わりは続けますが、チームでの関与は卒業になります。卒業時には、これまでの頑張ってきた経過を卒業証書として授与します。本人からの反応はあまりありませんでしたが、他の方々は、一つの頑張った成果として喜ばれています。今後も、対象者の夢や希望と一緒に寄り添いながら支援をしていきます。

## 臨床研究部活動状況

「臨床研究部 業績集について」 臨床研究部長 副院長 大鶴卓

多くの職員の研究発表、編集協力のおかげで平成27年度も当院の研究業績をまとめることができ、本当にありがとうございました。今年度大きかった研究成果は、木田先生を中心に当院も参加した藤田保健衛生大学の齋藤竹生先生のクロザピンの無顆粒球症発症の薬理ゲノム施設研究論文「Pharmacogenomic Study of Clozapine-Induced Agranulocytosis/Granulocytopenia in a Japanese Population」がBiological Psychiatryに掲載され、2016年の日本臨床精神神経薬理学会ポール・ヤンセン賞を受賞しました。木田先生が中心となり、理化学研究所、藤田保健衛生大学と共同した遺伝子研究を当院と連携し続けることになっており、今後さらに大きな研究成果が上がる事が期待できます。

臨床研究は日々の臨床で湧く素朴な疑問がスタートです。「この病院で最も大切なことは医療を受ける人である」との理念を忘れず、丁寧にチーム医療で臨床を重ねていくことが最も大切なことです。当院が行っている専門医療を大切にした臨床研究をさらに高めていきたいと考えます。

(琉球病院臨床研究部 研究業績年報 第4号 編集後記より抜粋)